

令和元年6月25日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16704

研究課題名(和文)20世紀アメリカ文学におけるトラウマとしての奴隷制度の表象

研究課題名(英文)Studies of the representations of slavery as trauma in twentieth-century U.S. literature

研究代表者

和氣 一成 (WAKE, ISSEI)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・准教授

研究者番号：10614969

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀アメリカ文学のテキストを対象として奴隷制度の歴史と表象、その記憶の問題を「トラウマ理論」を用いて探究した。詳細は次の通りである。奴隷制度の表象、その歴史化のプロセスを「トラウマ」理論の下で捉え直した。F. Scott Fitzgerald研究では、従来奴隷制度とは無縁の作家とされてきたTender Is the Nightにおいてその重要性を指摘した。Jean Toomer Cane (1923), Nella Larsen Passing (1929), Octavia E. ButlerのKindred (1979) 研究では黒人性の主体形成における奴隷制度の問題を再考した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アメリカ国家のトラウマ的な過去の出来事の一つに奴隷制度がある。その奴隷制度という苦い経験をいかに表象するかという問題、その歴史と記憶への関心は高まっている。しかし、米文学において奴隷制度をトラウマとして研究した学術成果はまだ国際的に萌芽の段階にあり十分であるとは言えない。本研究はこれまでの研究成果を踏まえて、20世紀アメリカ文学のテキストを対象として奴隷制度の歴史と表象、その記憶の問題を「トラウマ理論」を用いて探究した。本研究プロジェクトはその意味で、米文学において「トラウマ」としての奴隷制度という枠組みを導入する斬新なテーマと言え、その点に学術的意義や社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This project aims to historicize and decontextualise symptomatic readings of America's repressed past memories of slavery, showing how these are imbedded and articulated in such texts as Tender Is the Night by F. Scott Fitzgerald, Cane by Jean Toomer, Passing and Quicksand by Nella Larsen, and Kindred by Octavia E. Butler. This study seeks to trace the concepts of traumatic memory and latency in each novel in order to unravel how trauma and history are interrelated in the narrative of past history. These novels function as the narrative of trauma that vocalize the silenced and repressed history. By utilizing the story of characters' downfalls and conflicts, these authors encode and inscribe the collapse of a nation's "finest" but dark and traumatic values, national impasse and failure. In this sense, these novels can be regarded as texts which interweave personal and historical perspectives within them to present multidirectionally intense and immediate commentaries on the era.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：trauma slavery American Literature

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

戦争の世紀とも言える 20 世紀であるが、戦争と並んでトラウマを与えるものとして「奴隷制度」を見逃すことはできない。最近でも、Glenda R. Carpio, *Laughing Fit to Kill: Black Humor in the Fictions of Slavery* (2008), Tim A. Ryan, *Calls and Responses: The American Novel of Slavery since Gone with the Wind* (2008), Lisa Woolfork, *Embodying American Slavery in Contemporary Culture* (2009)などの先行研究に見られるように、奴隷制度の表象の問題、その歴史と記憶への関心は高まっている。しかし、米文学において奴隷制度をトラウマとして研究した学術成果はまだ国際的に萌芽の段階にあり十分であるとは言えない。これまでの自身の研究成果を踏まえて、20 世紀アメリカ文学のテキストを対象として奴隷制度の歴史と表象、その記憶の問題を「トラウマ理論」を用いて探究した。

2. 研究の目的

本研究では 20 世紀アメリカ文学のテキストを対象として奴隷制度の歴史と表象、その記憶の問題を「トラウマ理論」を用いて探究した。主な目的は以下のとおりである。

奴隷制度の表象、その歴史化のプロセスを「トラウマ」理論の下で捉え直す。

F. Scott Fitzgerald についての研究では、従来奴隷制度とは無縁の作家とされてきた *Tender Is the Night* においてその重要性を指摘する。

Jean Toomer, Nella Larsen, Octavia E. Butler の研究では黒人性の主体形成における奴隷制度の問題を再考する。

3. 研究の方法

本研究において、基礎的な作業となるデータの集積については既に開始していた。

平成 27 年度

これまで培ってきた F. Scott Fitzgerald の *Tender Is the Night* (1934)に関する先行研究の精査を行った。「文学とトラウマ」での主要先行研究として、Caruth, Cathy. *Unclaimed Experience: Trauma, Narrative, and History* (1996)や Felman, Shoshana. *Trauma: Explorations in Memory* (1995)、Hutcheon, Linda. *A Poetics of Postmodernism: History, Theory, Fiction* (1988)、Morrison, Toni. *Playing in the Dark: Whiteness and the Literary Imagination* (1993)などの論考を踏まえて理論的枠組みを構築した。それに基づき、白人主体の崩壊や、再生が描かれる際に言及されるの「黒い影」に着目し、それはまさしく奴隷制度というトラウマへの言及であることを確認した。本作品ではアメリカ国家のトラウマである奴隷制度のみならず、帝国主義が抑圧する他者の代理としての「黒さ」である点も明らかにし、これまで看過されがちであった本作品の人種主義、帝国主義、奴隷制度という問題を指摘した。

平成 28 年度

Jean Toomer の *Cane* (1923)を主に扱うが、これまで白人性 / 黒人性の境界線構築に関して行った研究の延長線上にある。平成 27 年度の研究の際に立脚した「文学とトラウマ」という観点に加えて、本作品では奴隷制度への直接的言及が *Tender Is the Night* よりも多いので、「文化とトラウマ理論」を強く意識した研究を行った。具体的には Herman, Judith. *Trauma and Recovery: The Aftermath of Violence—from Domestic Abuse to Political Terror* (1997)、Alexander, Jeffrey C. *Cultural Trauma and Collective Identity* (2004)、DeGruy, Joy. *Post Traumatic Slave Syndrome: America's Legacy of Enduring Injury and Healing* (2005)、Meek, Allen. *Trauma and Media Theories, Histories, and Images Routledge Research in Cultural and Media Studies* (2009)などの批評家の議論を参照し、「奴隷制度」を消費するという心性にも着目した。白人からの差別的視線、黒人が

内面化した優生学的劣等意識という二重の意識、それに加えて**奴隷制度という超時間的トラウマの影に苦しむ主人公のアイデンティティの構築性を検証した。**

平成 29 年度

長年アメリカ文学史において黙殺されてきた Nella Larsen の *Passing* (1926), *Quicksand* (1929) に関しては、これまでの研究において論じた“racial passing”(「白い黒人」)の問題を、今度は**黒人作家の観点から再検証する研究**である。前年平成 27、28 年度の「文学とトラウマ」という研究を踏まえて Larsen 研究において十分に検討されてこなかった「**奴隷制度というトラウマ**」の問題を検証した。同時代の作家、たとえば William Faulkner のように直接的に奴隷制の問題を作品中に書き込んでくることのない作風をとる Larsen であるが、Faulkner 同様に家父長的人種主義の問題の痕跡をテキスト中に残存させ、奴隷制度という陰画の下に浮き彫りになる既存の人種観に対しての攪乱的要素を多分に内包している点を検証した。

平成 30 年度

先述した平成 28 年度、29 年度の**黒人作家研究の延長線上に位置づけられる** Octavia E. Butler の *Kindred* (1979) に関する研究では、作品中に残存する奴隷制というトラウマの機能を明らかにし、作品の設定上、現代(1976年)の N.Y.から過去(1810年代)の南部にタイムスリップするその時間的、空間的超越の意義を検証した。本研究の独創性は**本作品の奴隷制の過去についてトラウマ理論を用いて説明し、空間的時間的な移動の意味をより説得的に説明する点**にある。その際に用いるアプローチは、「**歴史的事実の表象、そして歴史記述におけるトラウマの機能**」に関する先行研究であり、主に Dominick LaCapra, *Writing History, Writing Trauma*. Baltimore (2001)、Hayden White, *Tropics of Discourse: Essays in Cultural Criticism* (1978)の**歴史記述の問題とトラウマの歴史と記憶に関する理論を用いて奴隷制度の歴史性を検証した**。本作品における歴史の語り直す文学的営為は、**トラウマに向き合い主体性を再獲得するプロセスに**符合する点を検証した。

4. 研究成果

- I. F. Scott Fitzgerald の *Tender Is the Night* (1934)においては、白人主人公の主体性の崩壊と再生が**一組の夫婦を通じて描かれる**。白人主体の崩壊や、再生が描かれる際に頻りに言及されるのはまさに「**黒い影**」であり、それはまさしく奴隷制度というトラウマへの言及にほかならない。また、本作品ではアメリカ国家のトラウマである奴隷制度のみならず、帝国主義が抑圧する他者の代理としての「**黒さ**」である点も明らかにした。これまで看過されがちであった**本作品の人種主義、帝国主義、奴隷制度という問題を結節する点**を検証した。

- II. 米国ハーレム・ルネサンス期の作家 Jean Toomer の文学作品 *Cane* (1923)を主な対象とする。黒人主体の形成に白人側からの視線と奴隷制度の影との二重の意識が拮抗するさまを、トラウマ理論を用いて検証し、本作品中の黒人主体の構築には当時のハーレム・ルネサンスにおける「**新しい黒人**」へのレスポンスのみならず、奴隷制度に対する意識が強く働いている点を浮き彫りにする。Toomer の黒人主体形成の議論にトラウマとしての奴隷制度の議論を導入することで、従来 Toomer 研究では見逃されがちであった**黒人主体の形成における「トラウマとしての奴隷制度」の問題がいかに強く影響しているかを指摘した。**

III. 同じく米国ハーレム・ルネサンス期の作家 Nella Larsen の *Passing* (1926), *Quicksand* (1929) を取り上げる。Black Feminism 研究の成果として、黒人女性にとっては、アメリカ社会は黒人蔑視・偏見による人種差別と家父長制による性差別の「二重抑圧」の社会システムによる抑圧を経験してきたことが明らかになった。本研究では、その二重の抑圧のみが両作品のキャラクターたちへの抑圧をなすものではなく、**奴隷制というもう一つの抑圧が主体性の構築に大きく寄与している点を、トラウマ理論に立脚して明らかにした。**

IV. Octavia Butler の *Kindred* (1979)に残存し続ける奴隷制というトラウマの機能を明らかにする。本作品では自らの奴隷体験を語る奴隷体験記の形式を踏襲しつつ、作家自身の創造力を用いて奴隷制の物語を語る新奴隷体験記という1960年代に始まったジャンルに属す。本研究ではこの時代に盛んになった公民権運動などが提唱する、従来の白人中心的な歴史観、文学観に対する抵抗運動を考慮しつつ、奴隷制に関する現代の「集団的記憶喪失」に警鐘を鳴らす主人公 Dana の身体の傷に着目する。Dana の身体は、**奴隷制の記憶を伝える媒体として機能している点を明らかにし、現代(1976年)のN.Y.から過去(1810年代)の南部にタイムスリップするその時間的、空間的超越の意義を検証した。**

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

1. “Kabnis’s Red Stain of Bastardy: The Analysis of Racial Revelations in Jean Toomer’s *Cane*.” 早稲田大学『**学研究：人文科学・社会科学編**』第67号(20193) 和氣一成 (単 査読なし)
2. “The Nightmare of Black Death—Reading Symptoms of Slavery as Trauma in *Tender Is the Night*—” 早稲田大学『**学研究：人文科学・社会科学編**』第66号(20183) 和氣一成 (単 査読なし)
3. “Department-Based Faculty Development and Peer Collaboration: Developing a preparatory course for English majors.” 早稲田大学『**早稲田教育評論**』32(1)(20183) 和氣一成(共 折井麻美子 査読あり)
4. 「男らしさの可能性 「男性学」再考」早稲田大学ジェンダー研究所『**ジェンダー研究** 21』vol.7(20183) 和氣一成 (単 査読なし)
5. “Using Critical Theory and American Literary Works to Improve University-Level English Presentation” 英語音声学『**学術論文集**』(21)(20173) 和氣一成(共 折井麻美子 査読あり)
6. “Trauma of American Empire—The Analysis of *Tender Is the Night* through ‘Affective Mapping’ and ‘Counter Mourning’” 早稲田大学『**学研究:人文科学・社会科学編**』第65号(20173) 和氣一成(単 査読なし)
7. “A Black Vampire of Paradise -Analysis of Dorothy Raycroft as ‘Trauma’ in Fitzgerald’s Southern Narrative-” 早稲田大学『**学研究:人文科学・社会科学編**』第64号(20163) 和氣一成 (単 査読なし)

〔学会発表〕(計1件)

・「交差するアダプテーション—J.T.リロイの「作品」に見る‘hybrid testimony’」アメリカ学会(20186) 和氣一成

〔図書〕(計1件)

・「黒い死」の悪夢—『夜はやさし』におけるシェル・ショック、トラウマと歴史認識—『**照応と統合**』(小鳥遊書房 2019) 和氣一成(単 共著者 吉田朋正、他は通知なし)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究協力者氏名：N/A

ローマ字氏名：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：N/A

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。